

母親大会分科会に参加して

発言もありました。

母親運動の

母親運動

―各県・地域の運動交流

「母親運動」の分科会は、それぞれの地域で取り組んでいる母親運動の経験を交流し、さらに発展させていこうという母親運動の要ともいべき分科会です。

後継者を作り、財政を豊かにしていくために知恵を絞り、努力されている発言が続きました。

高知県では「母親運動Q & A」をつくり、六十年のあゆみの中で要求を実現してきた歴史を伝えて、母親

運動の宣伝をしているということでした。

自治体との関係は様々ですが、西濃（大垣市）では対市交渉の窓口を多くして要求の実現を図っているという報告があり、貴重な経験だと思いました。

母親運動はこうした各地の日々の活動に支えられていることを実感しました。

男女共同参画事業の民営化の動き（東京都北区）、新婦人や婦人民主クラブなどの女性団体と母親運動との関係、また保育運動など個別要求の運動団体と母親運動の関係などについての

原点でもある「核戦争から子どもの命を守る」とともに、「子どもたちを戦場に送らない」という決意を新たに、要求の実現、次世代への継承、発展を誓い合いました。

（都庁支部 K・H）

宮本百合子

―平和への発言と『道標』

今年特別企画「宮本百合子―平和への発言と『道標』」で、百合子文学の今日的価値を学びました。

二十八歳の助言者・岩崎明日香さん（多喜二・百合

子研究会）が、長編小説『道標』の作品世界を、主人公伸子の成長と変革、平和への希求やそのための行動の決意など、三十分で見事にコメントされ、会場は大拍手。若き日の百合子を彷彿とさせられました。

もう一人の助言者・澤田章子さん（日本民主主義文学会）は、戦後いち早くフアシズム再来の芽を察知した百合子の鋭い指摘と平和への発言を、評論や講演記録の核心部分から紹介。東京裁判の時、A級戦犯七人の死刑執行（一九四八年十月二十三日）の翌日、裁判なしで釈放された岸信介ら十九人のA級戦犯容疑者の一人、安倍源基について

「…治安維持法改悪のたびに立身出世した人間。小林多喜二を殺したのは安倍源基とその配下…」という百合子の講演の内容はとりわけシヨッキングでした。「秘密保護法」は「治安維持法」の現代版との指摘があるからです。

熱気いっぱい会場



参加者からは『道標』の時代とその後のソ連の違い、百合子の生い立ちや生き方、戦中の作家の転向問題、子どもに戦争をどう話すのかなど、幅広く活発な意見交換がされ、的確な助

言も参考になりました。戦争をする国に戻そうとする政治が切迫する今日、「今さらでなく、今こそ宮本百合子の文学を読み広めよう」とのまとめが大きく胸に落ちました。

（広島支部 H・S）